

転写禁止

E L I C ビジネス & 公務員 専門学校

自己評価報告書

令和元年度

記載責任者 森 登志男

記載者 木村 公一

目 次

I	学校評価の意義	1
II	学校評価の流れ	1
III	学校評価者	1
IV	学校の教育目標	3
V	本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画	3
VI	評価項目の達成及び取組状況	6
	(1) 教育理念・目的・人材育成像	6
	(2) 学校運営	7
	(3) 教育活動	8
	(4) 学修成果	10
	(5) 学生支援	11
	(6) 教育環境	12
	(7) 学生の受入れ募集	12
	(8) 財務	13
	(9) 法令等の遵守	13
	(10) 社会貢献・地域貢献	14
	(11) 国際交流	15

I 学校評価の意義

ELIC ビジネス&公務員専門学校では、文部科学省の「学校評価ガイドライン」に沿って、実行及び検証を行うことで自己評価報告書を作成し、この学校評価を適正な学校運営と教育改革に取り組む一助とする。

II 学校評価の流れ

①学園の中長期計画を達成するため、事業計画を作成する。②各教職員が事業計画に基づいて業務を遂行する。③各教職員が現状の問題点を洗い出し、総合的に評価する。④自己評価担当が評価内容を分析し、自己評価報告書（案）を作成する。⑤自己評価委員会を開催し、提起された課題点に対しての改善方針を定め、自己評価報告書を完成させる。⑥自己評価報告書の内容を学校関係者評価委員会にて検証する。⑦学校評価報告書を作成し、学園本部に提出する。⑧学校評価報告書の必要項目をホームページにて情報公開する。

III 学校評価者

①自己評価

ELIC ビジネス&公務員専門学校のすべての教職員が「自己評価者」となり、自己評価を実施する。自己評価担当者が内容をまとめ、自己評価報告書を作成する。

【自己評価者】

校長	森 登志男	教諭	徳永 好宣
事務長	小林 真子	教諭	水本 貴久
学年主任	木村 公一	教諭	長谷川 靖洋
学年主任	加藤 佳明	教諭	西 託民
教諭	神谷 貴禎	事務職員	小島 祐子
教諭	田口 和吉	事務職員	川瀬 知子

以上 12 名

【令和元年度自己評価担当者】

自己評価担当者は、次の本校教職員で構成される。

学年主任	木村 公一	
教諭	神谷 貴禎	
事務職員	小島 祐子	以上 3 名

②自己評価委員会

ELIC ビジネス&公務員専門学校自己評価委員会は、次の本校教職員で構成される。

校 長	森 登志男	
事 務 長	小林 真子	
学年主任	木村 公一	
学年主任	加藤 佳明	以上 4 名

③学校関係者評価委員会

ELIC ビジネス&公務員専門学校に関係している多様なステークホルダーであり、多角的方面より評価をいただく。構成する関係者は次のとおりである。

在学生保護者	2 名	
本校卒業生	2 名	
学生就職先	1 名	
地域関係者	1 名	
		以上 6 名

IV 学校の教育目標

本校は、第二次中長期計画の最終目標である「設置校の全てが、持続的に自立可能な組織として確立している学校法人となること」に基づき、第二次計画を実行することに全力を尽くすものとします。

V 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

1. 中長期計画の着実な実行

- (1) ビジネススキル科の募集停止、それに伴う各科の定員増、学費の改定など、学則の変更を行います。
- (2) 留学生の募集増に伴う、学習指導・生活指導の充実を図ります。
- (3) 戦略的指標（KPI）は必達目標であり、中長期計画実行委員会を中心に、綿密な計画のもと行動します。

2. ELIC の経営力の強化

- (1) 運営委員会は、効率化、簡素化、財務状況向上のリーダーとして先頭に立ち、その目標を達成するための計画を立て実行します。

3. 学校ブランド力の強化

- (1) 「建学の精神」「校訓」のとおり、本校は社会で活躍できる人材の育成を続けて 42 年目を迎えます。その伝統を踏まえ、新たな時代に真摯に対応できる人材の育成に、より力を入れていきます。
- (2) 「学生、保護者が求める成果を挙げる専門学校」としての地位を確立します。具体的には、公務員合格、各種資格取得、適材適所な就職を、ブランド力の強化に繋げます。

4. 在学学生・生徒の安定的確保

- (1) 160～175 名の入学を目指します。具体的には、公務員科 75 名、留学生 60 名、IT・ビジネス系 40 名です。
- (2) 高校訪問数を 50%アップし、体験入学への勧誘、在学学生・卒業生の報告を中心に、知名度向上に努めます。
- (3) 体験入学の参加者数アップを目指し、卒業生参加型の体験入学を増やします。
- (4) 学生のニーズを吸い上げるため、学生（一部）と校長の個人面談を行います。また、学生全員対象のアンケートを実施します。その結果をデータ化して活用します。
- (5) ホームページのコーナーを充実させ、相談会や体験入学に参加した高校生とのコミュニケーションを強化します。

5. 財政基盤と管理運営の強化

- (1) 中長期計画に基づき、学費の値上げを申請します。また、パソコンの学生貸与方式を一部改め、経費を削減する準備をします。
- (2) 経費の削減を目指し、教職員のコスト意識を徹底します。
- (3) 教務、学生指導、事務を担当する3名の主任を中心とする体制を強化し、学校目標、教職員個人目標の達成を目指します。
- (4) 就業時間管理を徹底し、無駄な居残りを根絶します。
- (5) 事務局主導による財政の管理を強化します。

6. 教学改革の努力

- (1) 本校の柱となる公務員、留学生分野の教育方法、募集手段などを見直す2つのプロジェクトチームを作り、両分野全体を見直します。
- (2) IT分野も情報処理系とWeb系の融合、医療事務系における情報処理系の活用を検討し、今後の学習に活かします。
- (3) 学生が「社会人となる、大人となる教育」を各教員が徹底するとともに、そのノウハウを指導部中心に共有します。
- (4) 教職員の資質向上のための研修会、勉強会への参加を奨励します。

7. 学生・生徒に対する学習・生活支援と広範な利害関係者との連携強化

- (1) 大学3年次編入学を目指す学生への学習支援を、愛産大短大と連携し、強化します。
- (2) 留学生の学習、生活支援をきめ細かく行うため、特別チームを編成し、情報交換を密にします。
- (3) 教員による会社訪問を実施し、採用状況、採用したい人材、社会の動向などを把握し、学生指導に役立てます。
- (4) 金山、大須のボランティア活動は、地域社会からも歓迎され、定着しています。これらを継続して行い、学生の積極的参加を奨励します。
- (5) 昨年度から導入した、心理カウンセラーと面接できるシステムを充実します。

8. 施設等教育環境の整備・充実化

- (1) 環境アメニティに配慮した施設・設備の改修に努めます。
- (2) 地震、集中豪雨、感染症に対する対策を見直し、実効性があるものとします。
- (3) 大学通信教育部との連絡、情報交換を密にし、円滑な校舎使用を行います。

VI 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価基準「適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1」

評価項目	評価
a. 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	3.4
b. 学校における職業教育の特色は何か	3.4
c. 社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3.5
d. 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・学生・関係 業界者・保護者等に周知がなされているか	2.9
e. 各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向け て方向づけられているか	3.2

■課題

特になし

(2) 学校運営

評価基準「適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1」

評価項目	評価
a. 目的等に沿った運営方針が策定されているか	3.4
b. 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	3.5
c. 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、また、有効に機能しているか	2.9
d. 人事、給与に関する規程等は整備されているか	3.6
e. 教務・財務等の組織整備などの意思決定システムは整備されているか	2.9
f. 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	2.9
g. 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3.1
h. 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	2.4

■課題

h)

- ・同じデータを各部署で入力しており、無駄な事務処理が複数ある。システム化すれば作業効率が上がる処理も多い。

■今後の改善方針

h)

- ・データを一元化する必要がある。必要なデータ項目を洗い出し、データを再構築する。専門の業者に依頼するかどうかは費用対効果を考え検討する。
- ・ペーパーレス化を推進する。

(3) 教育活動

評価基準「適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1」

評価項目	評価
a. 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3.3
b. 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年数に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	2.8
c. 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	2.5
d. キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	2.7
e. 関連分野の企業・関係施設や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	1.7
f. 関連分野における実践的な職業教育（産業連携によるインターンシップ・実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	2.1
g. 授業評価の実施・評価体制はあるか	3.5
h. 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	2.5
i. 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4.0
j. 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	3.2
k. 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3.3
l. 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	2.5
m. 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	2.4
n. 職員の能力開発のための研修等が行われているか	2.5

■課題

c)

- ・学科、担任、科目担当により指導する内容に格差がある。

e) 重点①

- ・資格取得を中心に指導しているため、業界団体との関連が薄い。

f) 重点②

- ・インターンシップは実施されているが、効果が計られていない。

h)

- ・外部からの意見を取り入れる努力はしているが、不足している。

i)

- ・必要な技術を持つ人材を確保したいが、分野によっては応募が少ない。

m)

- ・参観授業を実施しフィードバックしているが、先端的な知識・技能を習得する研修は行われていない。

n)

- ・必達目標がなく、業務を遂行することに追われている。

■今後の改善方針

c)

- ・外部からの意見、学生からの要望を取り入れ柔軟に対応する。

e) 重点①

- ・企業人や外部講師の授業を増やし、実社会とのマッチングを図る。

f) 重点②

- ・資格指導、職業教育を両立するカリキュラムを検討する。
- ・インターンシップ時期、期間、回数、評価方法の見直しを行う。

h)

- ・保護者向けの参観授業、企業との意見交換会など、評価して頂ける行事を検討する。
- ・学校評価委員の充実を図る。

i)

- ・常勤職員も視野に入れ、幅広く募集する。(金額面も考慮)
- ・非常勤講師が授業をしやすい体制作りを構築する。

m) n)

- ・研修に参加できる環境を推進する。

(4) 学修成果

評価基準「適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1」

評価項目	評価
a. 就職率の向上が図られているか	3.2
b. 資格取得率の向上が図られているか	3.5
c. 退学率の低減が図られているか	3.2
d. 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2.8
e. 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	2.6

■課題

特になし

(5) 学生支援

評価基準「適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1」

評 価 項 目	評 価
a. 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3.4
b. 学生相談に関する体制は整備されているか	3.2
c. 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	3.5
d. 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	2.5
e. 課外活動に対する支援体制は整備されているか	2.5
f. 学生の生活環境への支援は行われているか	2.5
g. 保護者と適切に連携しているか	3.3
h. 卒業生への支援体制はあるか	3.0
i. 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	2.4
j. 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・就業教育の取組が行われているか	2.1

■課題

- d)
 - ・健康状態に対する基準が曖昧になっている。
 - ・保健室の設備が不足している。
- e)
 - ・課外活動に対しての意思統一が出来ていない。
- f)
 - ・学習環境作りには力を入れているが、生活環境まで行き届いていない。
- i)
 - ・社会人のニーズが把握できていない。
- j) **重点③**
 - ・人材不足により、高校との連携が十分ではない。

■今後の改善方針

- d)
 - ・健康状態に対する基準を決め、学生・職員に周知徹底する。
 - ・保健室、職員室に救急セットを準備する。
- e)
 - ・労働時間を考慮し、学生の満足・成長を促すことができるボランティア、部活動を充実させる。
- f)
 - ・生活環境調査票などにより、学生の生活を把握する。
 - ・経済的支援を充実させる。
- i)
 - ・当面は高校生を中心に募集活動を実施するが、I T C、タブレットを使った視覚的な教育を充実させる。
- j) **重点③**
 - ・公務員試験の出張授業、高校生対象の模擬試験など労働時間を考慮し推進する。

(6) 教育環境

評価基準「適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1」

評価項目	評価
a. 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3.2
b. 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	2.5
c. 防災に対する体制は整備されているか	3.0

■課題

- b)
- ・実習施設が整っていない。

■今後の改善方針

- b)
- ・ジム施設の検討、パソコン入れ替えを検討する。

(7) 学生の受入れ募集

評価基準「適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1」

評価項目	評価
a. 高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組が行われているか	3.3
b. 学生募集活動は、適正に行われているか	3.5
c. 学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	3.5
d. 学生納付金は妥当なものとなっているか	3.4

■課題

特になし

(8) 財務

評価基準「適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1」

評価項目	評価
a. 中長期的に学校の財務基盤は安定しているか	2.9
b. 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3.3
c. 財務について会計監査が適正に行われているか	3.7
d. 財務情報公開の体制整備はできているか	3.4

■課題

特になし

(9) 法令等の遵守

評価基準「適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1」

評価項目	評価
a. 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3.5
b. 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3.3
c. 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3.4
d. 自己評価結果を公開しているか	3.5

■課題

特になし

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価
a. 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3.1
b. 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3.3
c. 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	2.2

■課題

c)

- ・通教部が土日祝と使用しており教室の確保が難しい。教育訓練の受託や地域に対する公開講座を実施するためには人材も不足している。

■今後の改善方針

c)

- ・外部の講座より、在校生の教育を重視する。

(11) 国際交流

評価項目	評価
a. 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	3.0
b. 留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	3.5
c. 留学生の学習・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	3.3
d. 学修成果が国内外で評価される取組を行っているか	2.5

■課題

- d)
- ・ 国外への情報発信は実施していない。

■今後の改善方針

- d)
- ・ 在校生、卒業生の評判は良い。口コミが継続できるよう教育に力を入れる。